



一般社団法人国際音楽祭ヤング・プラハ

チェコ委員会 フルーティスト フィンダ 志保子

ヤング・プラハを応援してくださる皆様へ

現地チェコ・プラハから御礼とご報告をさせていただきます。

今年の本祭は 9 月 1 日から 29 日までの間に 15 箇所 16 回の演奏会があり、8 カ国からの出演でほぼ 1 ヶ月に渡る長いものでしたが大成功裏に無事終了致しました。1 ヶ月といっても毎日演奏会があるわけではありませんが、演奏者のお出迎えや途中の準備他細々した目に見えないさまざまな事もあるため期間中は毎日気が抜けません。出演者の皆様が安全に過ごせ安心して演奏していただけるようお招きしている以上責任もあります。

今年もこうして終わってみてあらためてオープニングからファイナルまでの様々はシーンを想い出してみると、まるで一つの映画ができるほどにいろいろな場面が思い起こされます。決して言葉や文章だけでは表しきれない自分の胸と記憶の中だけに鮮明に残っている特別な宝物のようです。

今年は 13 名のソリストと 4 つのグループが出演くださいました。できることなら全員の皆さまについてここで触れたいのですが、字数の制限もございますのでここでは日本人の方々に主に許す限りで本祭の様子をお伝えできたらと思います。

第 28 回目のオープニングはスメタナホールにて品川ジュニア弦楽オーケストラの皆さまが

ヤング・プラハ OB でもあり現在チェコフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターとして、またソリストとしても活躍しているヤン・ムラーチェクさんを迎えてモーツァルトのヴァイオリン協奏曲第 3 番共演しました。ムラーチェクさんは品川ジュニアの演奏が想像以上に素晴らしくて大変楽しく一緒に演奏できたとコメントされていました。夏休みが終わる最後の日曜日だったために集客をちょっと心配しましたが、ホールいっぱいの沢山のお客様に恵まれヤング・プラハに相応しい爽やかなオープニングとなりました。

目を閉じて聞いているとジュニアという言葉を取っても充分通用する演奏で観客を惹きつけました。この演奏会のプログラム最後にはドヴォジャークの弦楽セレナーデが演奏されましたが、会場には作曲家アントニン・ドヴォジャークの玄孫にあたるお二人がいらして日本からやってきたジュニア弦楽オーケストラが演奏する高祖父（ひいひいお爺様）の曲に感激されていました。実はこのオープニングコンサートが無事終わった時点で、私達チェコ実行委員は本祭が終わったと勘違いするほどの精神状態になりましたが、いやいやこれから始まるんだ！と数日間のうちに気持ちあらたにリフレッシュさせて、そこから 29 日のクロージングコンサートまでは一気でした。今年はヤング・プラハ 始まって以来の新しいことがありました。それは、第 1 回目からのスポンサーとして支えてくださっているトヨタ自動車がヤング・プラハ の為にオフィシャルカーを提供してくださったことです。

一台は私達委員が演奏者を快適に送迎できるように Lexus を!! そしてもう一台はなんと運転手さんもつけてくださり演奏者が郊外に演奏へ行く際に安全に送迎をしてくださいました。これまで他の音楽祭がベンツや BMW に音楽祭のロゴをつけてかっこよく走っているのを見ていつかヤング・プラハもこんな風にプラハの街を走れたらと願っていたのですが、今年から願いが叶いました!! 3 名の実行委員で本祭を切り盛りしているチェコ実行委員会にとって大きな助けになりました。トヨタセントラルヨーロッパのペレシカ代表には感謝の気持ちでいっぱいです。来年もオフィシャルカーは提供くださるとお約束下さり今から気持ちが楽になっているほどのチェコ委員会です・・・。

さて、9 月 7 日にはヤング・プラハ にとっては大変重要な元チェコ実行委員会代表であるスメタナカルテットのヴァイオリン奏者であった故コステツキー先生所縁の土地ルチャニーでの演奏会が今年も行われフランスからの弦楽四重奏団ダフニス・カルテットが演奏しました。

カルテットのメンバーは弦楽器奏者として光栄な場所で演奏できたことに感動していました。9月9日のブラハ・フルトシュタイン宮殿での演奏会の同日お昼には恒例のブラハ日本人学校での演奏会がありました。ブラハに居ながらにして学校の中はまさに日本にいるよう！！ダフニス・カルテットのメンバーにはパリでヴァイリンを勉強されている小島遼さんがいらっしゃいますが、ヨーロッパの土地で自分と同じように暮らしている子供達には非常に親近感があると共有できた時間を楽しんで下さいました。プログラムはラヴェルやドビュッシーなどにも関わらず一番前に座っている小学1年生でさえも身を乗り出して聴き入っている様子が大変印象的でした。日本人学校の子供達から良いエネルギーをもらったのかその日の夜の演奏会はさらに素晴らしいものとなりました。

ヨーロッパ内からの日本人出演者としては、フランス・パリからサクソフォンの山本航司さん、ドイツ・ハンブルクからトランペットの松久保彩香さんがいらしてくださいました。サクソフォンのクラシックを聴いたのは久しぶりでしたが、山本さんの演奏は音楽的にも技術的にも大変洗練されていて、いつまでも聴いていたいような自然で心地良い演奏は満席のコロヴラット宮殿ホールの観客を魅了しました。松久保さんにはポーランド大使館内ホール他で演奏していただきましたが、チェコでもなかなか聴くことはできない柔らかいトランペットの音色。とても小柄な身体でトランペットを楽々操る姿に日本・ポーランド両国の大使をはじめ会場の皆さまは驚かされていました。松久保さんからのコメントでしたが、ヨーロッパでは身体の大きな奏者がほとんどで身体の大きさはかなわないけれど、自分にしかできない演奏をしたいとのこと・・・山本さん、松久保さんのこれからを今後も応援したいと思います。

（お二人の演奏はヤング・ブラハ日本委員会の HP www.youngpraha.jp で一部ですがご覧いただけます）

ここ数年本祭期間中ジャズ・アフタヌーンと称してアリアホテルのラウンジでジャズコンサートを一回だけ開催しています。毎年開演前早くから席を確保するお客様も沢山いらっしゃるほど人気があります。今年はポーランドからのピアノトリオでした。いつか日本でのコンサートにもジャズの出演者をお招きできる機会があると良いのではと思っています。

クロージングコンサートには駐チェコ共和国日本国特命全権大使嶋崎大使からのご招待で20カ国以上からのディプロマットの方々がご来場くださった他、沢山のお客様に恵まれドヴォジャークホールほぼ満席となりました。毎年思いますが、ドヴォジャークホールの正面玄関前にあられだけディプロマットの公用車が並ぶ演奏会はヤング・ブラハ以外にないと思います。今年のファイナルには、高松国際ピアノコンクールで優勝されたピアニスト古海行子さん、ドイツ・ベルリン文化協会からの推薦でつい先日のミュンヘン ARD 国際コンクールで第2位にもなられたチェコのフルードリヒ・ティーレさん、今年のブラハの春国際コンクールで優勝されたオーボエのマルティン・ダニエックさん、指揮はトマーシュ・スタンチェックさんで締めくくられました。

華奢な体型にもかかわらず堂々とクラフマニノフのピアノ協奏曲1番>を見事に演奏された古海さんは、これまでもどんどんと海外に出て沢山のものに触れて刺激を受けより感性を磨かれて演奏に活かして活躍していただいたピアニストです。

チェコのティーレさんはまるでチェコを使ってお話しされているように「チャイコフスキーのロココの主題による変奏曲」を演奏されましたが、特に繊細で美しいピアノッシモは強く印象に残りました。ミュンヘンからいらしていたヤング・ブラハ 創立者のバッヒンガー氏もピアノッシモのマイスターだ！と大絶賛でした。（ティーレさんの演奏も HP からご覧いただけます）

オーボエのダニエックさんは、すでにスイスのオーケストラの団員として活躍されていますが、すでに出来上がった完璧な演奏でオーボエの魅力をご披露され観客を魅了しました。指揮者のスタンチェックさんはお若いながらすでに貫禄がありオーケストラとソリストを上手くまとめられこれから楽しみな指揮者であると思います。

その他の出演者の皆さんも BRAVO!!! 本当にありがとうございました。

最後になりましたが、本祭を開催するにあたりサポートしてくださいましたすべての皆さまに心よりお礼申し上げます。来年はチェコスロヴァキア・日本国交100年記念、再来年はヤング・ブラハ30周年と続きます。この音楽祭がさらに発展していけるようにチェコ実行委員会一同一層努力していきたいと思っています。これからもどうか応援していただけますようどうぞよろしくお願い致します。

今年も無事に終了できたことに感謝を込めて。

今年は、9 月 1 日から 9 月 29 日にわたって、プラハとチェコ各都市等で演奏会が開催されました。



古海 行子（ピアノ）＜ ファイナルコンサートに出演 ＞

この度は、ヤング・プラハ国際音楽祭に参加させていただき、また歴史あるルドルフィヌムのドヴォルジャークホールで演奏することができ光栄でした。このような素晴らしい機会をくださった関係者の皆様には心から感謝しております。本当にありがとうございました。

私にとって初めてのチェコ・プラハでしたが、何よりも印象的だったのが人々の温かさでした。コンサートでは、会場で聴いてくださっていた方々が本当に暖かい気持ちで聴いてくださっているのが演奏しながら感じられ、純粋にただ音楽に感動しながら、音楽を通してその時を共にする感覚を楽しみながら、演奏することが出来ました。またそれだけでなく、音楽祭のスタッフの方、ホテルの方、練習場所の方、タクシーの運転手さんなど街の皆さんが本当に温かくて、あまり堪能ではない英語しか話せない私にも優しく接してくださいました。短い滞在でしたが、合間の時間にはチェコの街を探索することが出来ました。



カレル橋や旧市街広場、聖ヴィート大聖堂などからは積み重ねられて来た時間と歴史を感じ、またどこを見ても美しい街並みや、ふと見える自然の風景にとっても感動しました。

今回のプラハ滞在は夢のような時間でした。この経験を糧に、またいつかプラハの皆さんに演奏を聴いていただけるよう精進いたします。本当にありがとうございました。

5日間の日程で、30分のコンサートを2回行うこととなった。6月上旬、突然のこのようなお話をいただき、正直焦った。なぜなら音楽祭に招かれ、しかも外国で、ソロを演奏するなど当然初めての経験だったからだ。しかし少し時間が経つと、初めて行く国で、初めてお会いするピアニストと一緒に演奏をしている姿を妄想している自分がいた。学校の新学期の予定を確認し、すぐ参加できる旨を連絡した。初めてで不安もあったが気合が入った。そこで私がこだわったのはプログラムだ。

1曲目に演奏した「Fazil Say : 組曲」ではサクソフォンならではの色彩感、躍動感、そしてオリエンタルな美しい旋律を、2曲目の「野田燦 : 舞」では無伴奏の緊張感と、雅楽が生み出す「間の静寂」を、3曲目の「R.Corniot : Eglogue et Danse pastorale」では私の今の留学先であるフランス音楽を。いずれの曲も今の等身大の自分で表現したかった。自分なりに考えたプログラムだが、とはいえそれが本当に受け入れられるのかどうかは全く予想できなかった。1回目のコンサートは旧市街にある素敵なサロンで行われた。ピアニストとの合わせも順調に終わり、いざ本番。「よっしゃ行くぞ！」と思いながら吹き始めた。するとお客さんの反応が非常によく伝わってくるのが演奏しながら分かった。なんとも言いようのない、お客さんが自分のスピーチを聞いてくれるような、つまりステージ側からの一方通行ではない不思議な感覚がそこにあった。個人的な反省もいくつかあるが、この感覚を得られたのは私にとって財産になりうる貴重な経験であった。



2回目のコンサートは少し郊外の素敵なホールで行われた。残響が素晴らしく、このホールで演奏できること自体素晴らしい経験だった。2回目ともなると慣れたもので、意気揚々と演奏できたのだが、お客さんの反応は前回より少し鈍いようだった。個人的には演奏は前回よりうまくいったのだが、私の後のソプラノ歌手（袖で聞いていたが素晴らしい歌声だった）の方が会場を沸かせていたようで、自分がまだまだ道半ばということが思い出された。少し悔しかった。

演奏の他にも観光も存分に楽しみ短い期間だったがプラハという街を堪能できた。思いもよらぬ縁にも恵まれ新しい友達もでき、充実感とともに私はパリへ帰った。

最後に私のステイ先だったダナさん、素晴らしいピアニストのダニエルさん、この日程を何から何まで全てオーガナイズしていただいたフィンダ志保子さん、そしてこのような素晴らしい機会をくださった音楽祭関係者各位に心から感謝申し上げます。ありがとうございます。プラハ。またくるね。

小島さん（ダフニス弦楽四重奏団）＜ ワルトシュタイン宮殿ホール 他に出演 ＞



この度、フランスで結成した Quatuor Daphnis のメンバーとして国際音楽祭ヤング・プラハにて演奏することができたこと、大変嬉しく思います。プラハは私や私の家族にとり大変思い入れのある街で、広島交響楽団のコンサートマスターをしていた父が同団初の海外公演で訪れ、その際に同伴した母から、街の美しさをよく聞かされていました。スメタナ弦楽四重奏団ゆかりの地として大変重要な地である Lucany の息を飲むような美しい教会、そしてプラハ市内の上院の豪華絢爛なホールで、私たちのカルテットの名前のゆかりでもあり、結成時から大切に演奏し続けているラヴェルの弦楽四重奏曲を中心としたプログラムをお聴きいただけたこと、大変光栄でした。

それに加えプラハ日本人学校で日本人の子供たちのために演奏する機会をいただけたことは、特に私にとっては大変感慨深い経験となりました。日本から遠く離れた地で元気に暮らす子供たちが目を輝かせて演奏を聴いたり、質問をしたりしてくれ、同じく海外在住の日本人である私としては逆に大きなパワーをいただきました。今回が Quatuor Daphnis としては初めてのフランス国外でのコンサートとなりました。このような機会を与えてくださったヤング・プラハの皆様へ深く感謝申し上げます。またいつの日か、チェコの方々のために演奏できる機会がありますことを、心から願っております。

2019年9月1日第28回国際音楽祭ヤング・プラハの幕が開きました。そのオープニングのコンサートを私共の「品川ジュニアストリングオーケストラ」がスメタナホールで飾ることが出来ました。

品川ジュニアストリングオーケストラは、故鈴木鎮一が世界中の子供たちが自由自在に母語を話せるという当たり前のことに驚き、その母語をどの国のベビーも話せるようになるための方法、教育が存在することに気づかれ、それを音楽で実践しようと生まれたのが「スズキメソード」です。その品川支部（東京）で勉強している子供たちのストリングオーケストラです。

3年前の第25回のヤング・プラハに出演させて頂き、今回は2回目の参加となりました。と言っても毎年少しずつメンバーが入れ替わる為（この間、受験、就職等々）大半は初めての参加となります。そして我々にとっては1998年にオランダへの第1回海外コンサートツアーを始めて21年目、7回目のツアーとなりました。子供たちにとっては、この海外ツアーは直接自分たちが学ぶクラシック音楽が生まれ育ったヨーロッパの街、人、歴史に触れることのできる貴重な体験の場です。そしてチェコと日本を結ぶ文化大使の役割も担っています。その為、毎回プログラムには日本の曲を入れています。

今回は日本の代表的な民謡をテーマに和楽器の拍子木や鈴、チャンチキという楽器も加わっての「草津節」の主題による弦楽合奏のための狂詩曲（横山真男作曲）と日本古謡「さくら」の弦楽合奏版2曲を演奏しました。今回プラハでのコンサートの前に、ニュルンベルグ市主催のチャリティーコンサートをハイリッヒ・ガイストザールで行いました。

またヤング・プラハの音楽祭の一環としてバドシャンドウの聖ヨハネス教会でもコンサートを行う事が出来ました。そしてこの3回のどの会場でも本当にこの日本の曲が大うけで大変喜んでいただけたことは大きな喜びです。

そして何よりも弦の国チェコを代表するヴァイオリニスト、ヤン・ムラーチェク氏とモーツァルトのヴァイオリン協奏曲を共演できたことで、子供たちは我々指導者が何万回のレッスンをするよりも多くのものを感じ、学び吸収出来た気がします。

パブロ・カサルスがスズキメソードの子供たちの演奏を聴き涙して「音楽は世界を救うであろう」とおっしゃってから60年が経ちます。しかし我々は今でもその言葉に励まされ、少しでも世界の平和と人々との友情のために演奏して行ければと願っています。そして同じ目的を持っている国際音楽祭ヤングプラハのステージを踏めたことを誇りに思い、このような素晴らしい体験をまた別の子供たちにも味合わせてあげる事が出来るようにこの活動を続けて行ければと思います。そして国際音楽祭ヤングプラハがこれからも50回100回と続いて行くことを心より願っています。



ヤング・プラハ・フレンズのご案内

「ヤング・プラハ・フレンズ」は国際音楽祭ヤング・プラハの活動を通して若い優秀な演奏家の成長を支援しています。ヤング・プラハを経験した若い演奏家たちは、ヴァイオリンの神尾真由子(2001年参加)、ピアノの上原彩子(2002年参加)、ピアノのジュゼッペ・アングロロ(2005年参加)、チェコの宮田大(2011年参加)をはじめ、世界の名だたるコンクールでも活躍し、ヤング・プラハでの経験を糧にますます芸術の高みを目指しています。

フレンズの種類	年会費(4~3月)
個人会員	一口 10,000円
家族会員(個人会員のご家族)	一口 5,000円
法人会員	一口 30,000円
特別会員 (ヤング・プラハ出演者)	3,000円以上 (但し出演年から3年間は無料)



音楽祭は非営利団体として日本・チェコ両国の企業メセナと文化庁の支援、そして実行委員の献身的努力によって運営され、1992年より1年も休まずに続けてまいりましたことは、奇跡といって過言ではありません。しかし昨今の世界的経済不況により運営が危機的状況でございます。この意義ある音楽祭の持続的な発展のために、フレンズの皆様には引き続き暖かいご支援を賜りたく、本年度の継続をお願い申し上げます。また、お知り合いの方々にもご入会をお誘いいただければ幸いです。
ご入会はホームページからもお申し込みいただけます。

(<http://www.youngpraha.jp/>)

ヤング・プラハ・フレンズの皆様には、年一回東京で開催される国際音楽祭ヤング・プラハin Tokyoコンサートにご招待させていただきます。また活動の様子をご報告する会報をお送りしております。

謝辞

お陰様で今年で国際音楽祭ヤング・プラハも28周年を迎えることができました。ヤング・プラハは、ヤング・プラハフレンズ会員の皆様、そして株式会社千代田テクノル様、株式会社重松製作所様、相互整美株式会社様、株式会社長島屋様、ピルスナーウルケル様をはじめ、ご協賛各社のご支援・ご協力により支えられ、若い音楽家たちの発展に寄与しています。これまでのご支援に心よりお礼を申し上げるとともに、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

再来年、2021年に国際音楽祭ヤング・プラハは30周年という大きな節目を迎えます。日本でもこれまでヤング・プラハで演奏され、現在ご活躍中のOB/OGに参集願ひ、30周年に相応しいコンサートを開催する計画です。どうぞご期待下さい。

ヤング・プラハではこの音楽祭の趣旨に賛同されこの活動をサポートして下さるフレンズ会員の方たちをさらに増やすべく努力しております。皆様のご友人の音楽愛好家の方たちにご紹介いただければ幸甚に存じます。弊ホームページにヤング・プラハの主旨、活動の履歴、内容、写真、映像、さらに会員申込のページが用意されておりますので、ご活用いただければ幸いです。



一般社団法人国際音楽祭ヤング・プラハ